子どもに
やさしい
まちづくりPJ

-vol.6-

スポーツと文化ももたない・・・

※ＰＪ＝プロジェクト

「学校がもたない」いうタイトルが衝撃的だったのか前回の内容の反響を耳にすることが多くありました。「今の学校ってそんな状況なの」「先生の退勤時間はそんなに早かったんだ」「休憩時間があることを知らなかった」

そんな中、今回もネガティブなタイトルですみません。でも、現実を見ないと次へ進めないので今回も状況をお伝えします。

チームが組めない

左の表は、町内の部活の状況です。追分中学校、早来学園あわせて13の部活があります。チームスポーツはプレイヤーの人数が決まっているため一定の人数が必要です。ご覧になってわかるように学校単独でチームを組むのは厳しく、新人戦（1年生2年生チーム）では両校とも人数を満たすことができていません。では、個人競技はどうかというと試合には出られるものの、人数が少ないため練習相手が限られてしまう状況です。

文化活動も厳しい

両校とも一番部員数が多いのは美術部です。ただ活動機会は限られているようです。吹奏楽部は部員数によって演奏できる曲の選択肢が限られてくるようです。少子化で子どもの数も少なくなり、スポーツだけでなく文化活動においてもやる人が少ないことが課題に挙がっています。

一番厳しいのは体制

子どもの数が少ないのも課題ですが、実は一番厳しいのは体制です。前回、学校の先生の状況をお伝えしました。部活動は先生の勤務ではありません。ボランティアです。そして、部活動顧問は必ずしもその競技や活動の経験者とは限りません。また経験者であったとしても本来業務ではないため負担は大きいです。そのため、国では部活動を学校から切り離して地域で担う動きが進められています。それが「部活動の地域移行」です。

でも、冷静に考えてみてください。平日の16時から中学生を教えられる先生以外の人はどれだけいるのでしょうか。また、今は部活動だから18時前に終わりスクールバスに乗れますが地域に移行したらそれが可能になるのでしょうか？だからと言ってこのまま無償ボランティアとして学校の先生にただ働きで見てもらうのはどうなのでしょう。家族やお子さんがいる先生もいます。

今ならまだ間に合う

スポーツと文化活動がもたないのは部活動の話だけではありません。「やる人がいない」のは大人のスポーツ、文化活動も同じです。「教える人がいない」は少年団も同じかもしれません。でも、現時点ではまだやる人も教える人も残っています。ではどうするか。というところで来月の紙面に続きます。